

■ 手取川の河川敷（粟生町）



■ 環境の特徴

粟生町の手取川河川敷は、河口から約5 kmにあり、水際は一部が砂地になっていますが、多くは大小さまざまな石で埋め尽くされています。水際近くには、カフヤナギやアキグミ、カワラヨモギなどが見られ、水際から離れた草地には、イネ科やキク科、マメ科の草本類が生えています。

手取川はダムや堰堤工事、河川改修工事などで、昔と比べて河川の氾濫がほとんどなくなりました。そのため、冠水をくり返す河川敷の厳しい環境に適應してきた昆虫は減少しています。当地も帰化植物の侵入が多く、河原特有の環境は残っていません。

位置図





ヤナギの樹液にはコウチュウ類が訪れます。



水ぎわにはコニワハンミョウやハグロトンボが見られます。

### ■ すんでいる昆虫の特徴

水ぎわ近くの砂地には、コニワハンミョウやハエ類が地表を飛びまわっていて、アキグミには、ナミテントウが多く見られます。草地ではイボバッタなどバッタ類が多く見られ、セリ科の白い花にはアシナガバチなど数多くのハチたちが群がっています。このように草地性の昆虫が多いのが特徴です。

また、河川敷に見られるヤナギは、夏に樹液がしみ出していて、カナブンをはじめヒラタクワガタなどのコウチュウ類が集まります。河川敷の脇を流れる細流には流水性のヒメシマチビゲンゴロウなどの水生昆虫やハグロトンボがすんでいます。



## ハグロトンボ



成虫は6月から9月まで見られ、7、8月に多いです。



### ■生態

ヨシなどが生える流れの緩やかな小川などで見られます。飛び方は緩やかで、ひらひらと舞うように飛びます。他のトンボのように、静止飛行（ホバリング）はしません。縄張りを持つ習性があり、明るい水辺の石などに止まって、他のオスを追い払います。

### ■体の特徴

成虫の体長は約6cmあり、たたんだときのハネの長さは約4cmあります。オスは黒色のハネと緑色の金属光沢をした細長い体の特徴ですが、メスの体には金属光沢はありません。



## イボバツタ



成虫は7月から10月まで見られます。



### ■生態

卵で冬を越し、5月に幼虫がかえります。草が少なく、明るく開けた場所を好みます。褐色のまだら模様をしているため、砂地や土の上に止まるとどこにいるのかわかりません。

### ■体の特徴

体長は約2cmで小さく、体は薄い褐色をしています。背中にイボ状の突起があり、名前の由来となっています。

**アカスジカメムシ** 見られる時期 6月から9月に見られます。



■生態

幼虫、成虫ともにセリ科の植物の花の蜜や種子などから吸汁します。体色は黒と赤のため、見た目は毒々しいです。しかし、毒は持っておらず、さわっても平気です。

■体の特徴

体長は約1cmで、体には黒地に赤い縦しま模様がある、特徴的なカメムシの仲間です。

**コニワハンミョウ** 見られる時期 成虫は4月から8月まで見られます。



■生態

河川敷などの砂地に生息し、地上を歩いている小昆虫などを食べています。幼虫は砂中に穴を掘り、平たい頭を地面すれすれに出して、近くをとある小昆虫を食べます。

■体の特徴

体長は約1.3cmで暗い緑色の体をしています。腹面は青緑色の金属光沢をしています。大きく張りだした複眼と鋭い大アゴ、そして、背中にある3対の白い紋が特徴的です。



## キボシトックリバチ



6月から9月まで見られます。



### ■生態

キボシトックリバチは、ガ類の幼虫をお尻の毒針で麻酔させ、泥で作った巣に運び込みます。巣はお酒を入れる「とっくり」に似ています。巣の大きさは直径1.5cmほどで、中に卵を1つだけ産みます。ふ化した幼虫は麻酔されたガ類の幼虫を食べて冬を越し、6月ごろ羽化します。

### ■体の特徴

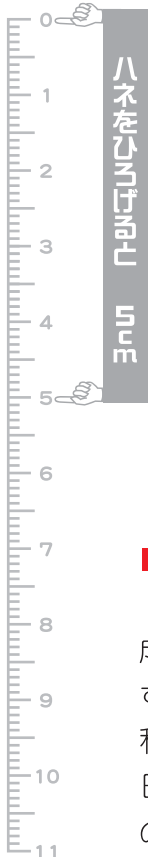
体長は約1.5cmで、腹部の丸いのが特徴です。トックリバチにはいくつかの種類があり、キボシトックリバチは腹部に2つ、胸部に1つの黄色い紋があることで見分けられます。



## モンキチョウ



4月から10月まで見られます。



### ■生態

幼虫で越冬し、4月に羽化します。成虫は一年で春と夏の2回発生します。幼虫はシロツメクサなどのマメ科植物を食べて成長します。成虫は日当たりの良い場所を好み、河川敷の開けた草地などにすんでいます。

### ■体の特徴

ハネを広げた大きさは約5cmあります。一見、キチョウに似ていますが、後ろバネの裏側に一对の丸い紋があるので、見分けることができます。オスのハネは黄色ですが、メスは白色と黄色の2タイプがいます。

河川敷は明るく開けた草地なので、このような環境を好む昆虫がたくさんいます。ただ、大きな石がごろごろしているため、歩きづらく、転ばないように注意が必要です。また、水辺もあるので、観察には長靴を履くと良いでしょう。



- ・流れの近くにある砂地は、コニワハンミョウの多いポイントです。人の気配を感じると飛んで逃げ、体の金属光沢がきらりと光ります。



- ・5月前半のアキグミにはナミテントウやハナアブなどが集まっています。テントウムシ類はアキグミに寄生しているアブラムシを食べています。



- ・秋になると草地では、イボバツタやクルマバツタモドキなど多くのバツタ類を観察することができます。また、7～9月に咲くセリ科の花には、アカスジカメムシやハチ類が訪れます。



- ・河岸のヤナギに樹液の出ていることがあります。ここでは、カナブンやクワガタムシなどが観察できます。

## ■ 保全のために

本来、河川敷の環境は大雨が降ると冠水するなどして、不安定な環境でした。ところが、河川改修工事により氾濫しにくくなり、冠水をくり返す不安定な環境に適応した植物や昆虫たちがとても少なくなっています。河原特有の環境を保全するためには、河川改修工事のやり方を見直す必要があります。